VOL.28
2022.冬号

NANAIRO

なないろ

NANAIRO

2022年新春のご挨拶

院長　岩永　正彦

院長の今年の夢：ピアノの達人

令和4年　新年あけましておめでとうございます。
私の当初からの、そして今後も貫く根本信条は利用者とのコミュニケーションを大切にするということです。すなわち、利用者に安全・安心はもちろんのこと、楽しく明るく虹の家生活を送ってもらう手助けをするということです。
そこで、ピアノを弾き利用者に聴いてもらうことをコミュニケーションの一手法として、今年の抱負を『ピアノの“達人”になる』ということにしました。
ただし、誤解のないように最後まで読んでください。
私は令和元年4月に入職する前に、虹の家がどのような施設かということを知り、私に医療の他に何ができるかを考えたところ、趣味（特技ではない）を活かして利用者に喜んでもらうコミュニケーションのツールを作成したり、あるいはイベントを開催することを思いつきました。そして入職後、施設に慣れたところで早速始めました。
まず思いついたのが楽器を奏でることができる職員を募り、毎週曜日を決めて定期的に交代でミニコンサートを行うことでした。私はクラシックギターやハーモニカ（どちらもド素人の域を出ない我流）を担当し、他のメンバーにはピアノ、フルート、フォークギター、クラリネットが趣味以上に上手な職員たちがいます。同年6月には琉球の三線を加え、7月には福岡市役所職員でセミプロ級のフルート奏者を招いて大々的な（?）演奏会を行うところまで発展しました。
ところが、残念なことに新型コロナウイルス感染症（以下コロナと略します）の流行が福岡市でも始まり、その対策に全力で集中せざるをえなくなり、中断を余儀なくされてしまいました。わずか入職後4か月すぎたばかりのことでした。
今年の春で入職後早くも3年になりますが、上に述べたとおり、ほとんどの期間が職員一丸となって“虹の家にウイルスを一匹たりとも入れてはならない！”を合言葉にコロナ対策に取り組まざるをえなかった期間ということになります。利用者の中には呼吸器が弱い人たちが多く、全国的にみると、虹の家と同類の施設内でコロナが蔓延し、たちまちのうちに重症者が増え、益々ADL（日常生活動作）の低下につながったという事例が散見されました。コロナの第5波もご家族のご理解ご協力もあり乗り越えましたが、第6波の襲来に恐々としながらも常に利用者ファストでの対策を講じ、施設生活を少しでも安全、安心で明るく楽しい生活を送ってもらいたいと考えています。
私はピアニストの左右の指がなぜ独立して動くのか不思議だと思うくらいピアノとは無縁でした。それにもかかわらず、好奇心旺盛なため無謀にも数年前、自宅に電子ピアノを買い練習を始めました。しかし、やはりどうしても左右の指が別々に動かずに連動するため、何度挨をかぶったことかしれないくらい挫折と再挑戦を繰り返しました。電子ピアノが数万円もしてもったいなくもあり、昨年末から今度こそ！と一念発起して練習を再開し、やっと右手と左手が独立して動くようになり感激している段階です。利用者は童謡的な曲を好まれますので、今年は是非とも童謡が弾けるまでの“ピアノの達人”を目指して努力を続けたいと思います。
まだまだコロナの感染はゼロにはならず、コロナといかにして共存するかの時代になります。虹の家の玄関ではコロナをブロックし、施設内では時間を見つけては練習し、みんなと楽しく過ごしたいと思います。

NANAIRO

白川嘉継先生 顧問就任のお知らせ

令和3年12月から白川嘉継先生が、虹の家の顧問に就任されました。

顧問として

主に第三水曜日の午前中に虹の家にて入院・外来の患者さんを診ていただき、当院の医療スタッフを指導いただきます。来院日以外も、電話相談に応じていただくことになっております。長年の小児科医としてご活躍されており、重症心身障害児者や発達障害の臨床経験も豊富であり、虹の家の職員の専門性向上に大きな力になっていただけるものと確信しております。

略歴

1959年　福岡県生まれ
産業医科大学医学部医学科卒業
産業医科大学NICU医長・同大学小児科講師
福岡新水巻病院周産期センター長
令和3年10月1日　「福岡・みずまき 母と子の心療所」開院
北九州地区小児科医会副会長
遠賀中間小児科医会会長

著書

人生の基盤は妊娠中から3歳までに決まる

院内行事

10/29 Frii

ハロウィン

10月の最後の週、3日に分けて、ハロウィンを楽しみました。手作りの衣装で仮装を行って、「トリック・オア・トリート」と、事務室や院長室、副院長室など施設内をめぐりお菓子をおねだりしました。

HAPPY BIRTHDAY

12/13 Moni

ハッピーバースデイ ラムちゃん!!

入所しているラムちゃんの初誕生でした。かわいいお洋服を着て、みんなでお祝いをしました。12月20日に行われるラムちゃんの心臓の手術の成功を祈りました。

12/21 Tue

餅つき大会

2年ぶりの餅つき大会を開催しました。例年のたくさんのボランティアさんが行っていただくのですが、感染対策の一環としてボランティアさんに頼らず職員と利用者さんで頑張りました。
最初は、餅の付き方も丸め方も、さすが素人!!といった感じでしたが、徐々に慣れてそれなりになってきました。午前中いっぱいかかり疲労困憊でしたが、餅をついている利用者さんの笑顔が何よりの励みになりました。
コロナの恐怖のない2022年になりますように。元気で笑顔の絶えない1年になりますように。みんなで、願いを込めた餅つき大会となりました。

12/24 Fri

クリスマス会

クリスマス会を行いました。コロナ禍で密を防ぐため、2階フロアと3階フロアに分けて開催しました。新型コロナ感染拡大で休止していたチームレインボーの復活ライブがありました。サンタに扮した河邉PTの指揮でメンバーも観客も大興奮の「嵐」でした。また、岩永院長、津田OT、中村栄養士、持永保育士で結成された職員音楽隊の演奏もあり、和やかなクリスマス会となりました。
中川副主任の手作りチラシが素敵で、クリスマス気分が盛り上がりました。

リハビリテーションレポート 第4回

療育の取り組み

今回は、利用者様の生活がより快適にかつ楽しく活動的に過ごしていただくことや、
より発達を促すための、療育活動を紹介いたします。

上肢動作が活発となる活動姿勢の提供

檜崎 富生様 50代　脳性麻痺・小脳失調

小脳失調により体幹の筋緊張が低下し、円背で安定しない座位姿勢になり同時に覚醒状態も不良となります。体幹が安定しないことで、本人の上肢や手指の機能を十分に使えず、食事など上肢活動に影響します。
座位姿勢改善のため写真のような座面と背シートが一体となった補助クッションをメーカーにレンタルを依頼しました。

この補助クッションを利用したところ、骨盤から大腿部(太もも)にかけて身体と座面の接触部分が増すことによって安定性を得られ、臀部に座面の感覚が明確に入ることで覚醒状態が向上し腹筋に力が入りやすくなりました。結果、身体の土台部分にあたる骨盤部分が安定し、上肢動作によって体が左右に揺れても安定して上肢を使用することが可能となっています。

活動のための座位と美味しく食事をとるための腹臥位の提供

魚返 貴子様　50代　レット症候群

本人は車椅子を起こし過ぎると身体が安定せず、力が入ることで腕が閉じてしまい胸郭の動きを阻害することで呼吸が浅くなります。
しかし、座面が固い椅子にすわり臀部にしっかりと座っているという感覚と前受けテーブルに肘を乗せることで身体が安定し、腕が広がりリラックスでき息止めが無くなります。前受座位で日中活動に参加することで興味のあるものを追視や表情の変化などの反応が見られます。
レット症候群によくみられる呑気があり、お腹に空気が溜まり腹部膨満になっており、腹臥位を毎日昼食前に腹臥位を約30分間行って排ガスを促しています。これにより、食事を美味しく摂取していただくことにつながればと思っております。

活動性や発達、社会性を育むために行うレクリエーション

利用者様とのスキンシップや活動量を増やし、本来利用者様が持っている力を引き出すことも目的に、毎日朝・昼にレクレーションを行っています。いつまでも人間は発達すると考えています。今回は2つの活動をご紹介します。

スヌーズレン

オランダ語でスヌーズレンの語源は2つのオランダ語、スニッフレン(クンクンとあたりを探索する)、ドゥースレン(ウトウトくつろぐ)から造られた造語であり、「自由に探索したり、くつろぐ」様子を表しています。光、音、におい、振動、温度、触覚の素材など複数の感覚を一度に感じることで脳がより活性化するということが分かっています。
虹の家で光を出来るだけ少なくし薄暗く静かな環境で静かな音楽や映像、におい(アロマ)を提供し、私たちよりも敏感に物事を感じる利用者様に癒しを提供しています。
利用者様と関わるスタッフが同じ感覚を経験し、互いの感じ方や喜びを共有すること、それを通して人と人との関係をより深めることできます。

新聞シャワー

新聞紙を利用者様に自由にやぶったり切ったりしてもらいます。新聞紙をやぶるときの音や感触が利用者様方にとっては心地が良いものとなり、自然に笑顔にあふれ上肢動作もそれらに伴って活発となります。また能力に合わせ「やぶる」「きる」「置く」など役割も分担し利用者様同士で時間を共有します。そのやぶった新聞紙を傘の中に集めて上から少しずつ段々と強く降らしていきます。それを見て利用者様方は興奮、笑顔、手を伸ばす、眼を閉じるなど様々な反応を見せてくれます。特に目で新聞紙を追うことは、ほとんどの利用者様で見られます。この追視(目で人・物を追う)という能力は人や物に興味を持ち、現在の出来る限りの力でそれらをとらえようと上肢や下肢が動き出すための発達に欠かせない能力といえます。

担当者
岡本 慎平
（理学療法士）

虹の家で6年目となりました。現在は個別リハだけでなく、利用者様の生活の中の問題点を支援員・保育士・リハビリ・看護師スタッフと協力しながら解決する役割も担っています。そのため利用者様の生活支援を他スタッフと共に実施し、時には夜間の様子を評価するため夜勤をすることもあります。
私はホテルや旅館に宿泊するのが大好きで、そこでお客様の願いをほとんど叶えることや道筋を提案してくれる「コンシェルジュ」という方にとても憧れを持っていました。将来は利用者様のしたいこと、するべきことに気が付くことや問題点を早期に解決できるよう、建設的な提案ができる「療育コンシェルジュ」を目指しています。

社会福祉法人
あきの会

http://akinokai.jp/

虹の家
障がい児者医療生活支援ホーム

〒812-0044 福岡市博多区千代一丁目15番10号
TEL/092-651-7325　FAX/092-651-2420

みかんの樹
MIKAN 森のかまどやの亭

〒811-0101 福岡県粕屋郡新宮町原上1223-4
TEL/092-962-0585　FAX/092-962-0527

Instagram